



潮香だより

2学期が始まりました…！

とても暑かった夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。保護者の皆様は、ホッとしているのが正直なところかとお察しします。

また、夏休み中、大きな事故等もなく有意義に過ごせましたことに感謝申し上げます。

さて、毎年思うことですが、2学期の始業式は子どもたちの大きな成長を感じることができる日です。日焼けをしているせいもあるでしょうが、「たくましくなったなあ。」と実感することができます。

子どもは一日一日成長しているのですが、なかなかそれを感じることはできません。でも確実に毎日成長しているのです。その手助けをしている教師の重要な役割を感じながら、お子様をお預かりし、育てていきたいと考えています。

2学期は特に行事の多い学期です。それらの行事を通して、子どもたちに仲間の重要な一員であることを自覚させ、「自分はみんなの役に立っている一人」という意識を持たせていきたいと思ひます。

2学期もご理解、ご協力をよろしくお願ひいたします。

理科教育賞【準大賞】受賞！

7月24日(水)横浜ベイホテル東急において、「公益財団法人 日産財団『第7回理科教育賞贈呈式』」が開催されました。会場には、本事業の助成を受けている学校・研究団体・教育委員会の関係者300名余が集まりました。

本事業は、子ども達に科学的に思考し判断する力をさらに高めてほしい、先生たちが取り組む理科の授業や教育研究を応援したいという願ひから日産財団が実施しているものです。

本校では、平成29・30年度に助成を受け、その間の取組が評価され福島県代表として「大賞」候補にノミネートされました。当日は各県代表(神奈川県・福岡県・栃木県・福島県)4校による成果発表(プレゼンテーション)により「大賞」が決定されるという流れでした。本校からは、青木・渡邊のコンビでプレゼンテーションに臨みましたが、惜しくも大賞には一步及ばず「準大賞『理科教育賞』」を受賞しました。会場には、本研究を中心となって推進してきた田中徹先生(現平二小)にも来ていただき、喜びを分かち合いました。(前鈴木和美校長先生にもご報告申し上げます。)

これからも小名浜一小的子ども達のために、あらゆる面で教職員一丸となって力を注いでいきたいと考えています。



「心のスイッチ」…

～始業式 校長講話より～

今日の始業式で、子どもたちに「心のスイッチ」という詩を紹介しました。

「心のスイッチ」

東井 義雄

人間の目は ふしぎな目
見ようという 心がなかったら
見ても 見えない
人間の耳は ふしぎな耳
聞こうという 心がなかったら
聞いていても 聞こえない



頭もそうだ
はじめから よい頭 わるい頭の
区別があるのではないようだ
「よし やるぞ！」
と心のスイッチがはいると
頭も すばらしい はたらきをしはじめる

心のスイッチが 人間を
つまらなくもするし
すばらしくもしていく
電灯のスイッチが
家の中を明るくもし 暗くもするように

キーワードは、「よし、やるぞ！」。どんな人になりたいのか、どんな2学期にしたいのか、つまり自分の夢や目標を達成させるためには、「よし、やるぞ！」という心のスイッチを入れるかどうかにかかっています。秘められた自分の能力を、心のスイッチを入れずに眠らせてしまうのか、逆に心のスイッチを入れて、素晴らしい自分を創り上げていくのか、大きな分岐点になります。

では、心のスイッチはどんなときに入るのでしょうか。そのきっかけは何でしょうか。

- ①実際に、または本などで素晴らしい人物やその生き方に触れたとき
- ②周りの人から「やれば、できる」と激励されたとき
- ③周りの人(友だち)の生き方に影響を受けたとき
- ④家族から温かく支えられ、それに応えようと思ったとき

まだ他にもあるかもしれませんが、決して心のスイッチが入らないことを人のせいにはしてはいけません。自分が自分を創っていく責任者なのでから…。